

公民館かながわ



平塚市立吉沢公民館

目次

令和3年度 生涯学習指導者研修 「公民館等担当者コース」 事業報告	2 3
令和3年度 公民館館長・職員等研修会 県連YouTubeチャンネル開設	4
令和3年度 館長・公民館運営審議会委員等研修会	5
第63回神奈川県公民館大会	6
文部科学省優良公民館表彰 被表彰館の紹介	7
オンライン会議システム 「ZOOM」研修会	8
公民館研究大会山梨大会	8
動画配信機材貸出事業について 全公連表彰被表彰者の紹介	9
わが館では 中井町立井ノ口公民館 箱根町社会教育センター	10
サークル紹介 『すず虫愛好会』 (藤沢市村岡公民館)	11
『カントリーダンス香川』 (茅ヶ崎市立香川公民館)	11
総会予告・表紙解説・編集後記他	12

**令和3年度
生涯学習指導者研修
「公民館等担当者コース」
事業報告**

生涯学習指導者研修「公民館等担当者コース」は、県教育委員会と県公連との共催事業です。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンラインの活用など新しい学びのスタイルが急速に広まりました。一方、こうしたスタイルが、対面での学習や活動の利点の全てを代替できないことも認識されました。

このような中、本コースはオンラインと対面との併用開催としました。第3、4回は、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインのみに変更しましたが、延べ136人にご参加いただきました。

本コースのテーマは「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」です。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった公民館の事例発表や各教育事務所社会教育主事によるアイスブレイキングの参加体験型講義、参加者同士の情報交換も行うことができ、学ぶことの大切さを改めて感じるとともに、様々な気づきを得られる貴重な機会となりました。

また、課題も多いオンライン開催ですが、withコロナ時代における研修のあり方やつながりづくりについて考える機会となりました。

《第1回》 5月27日(木)

会場 横浜西合同庁舎

○情報提供「PLANETかながわと生涯学習情報コーナーの紹介」
県立図書館広報・生涯学習推進課 佐藤 孝樹 氏

○講義「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」
独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター長 清國 祐二 氏

○事例発表「ICTを活用した社会教育事業について」
綾瀬市立中央公民館長 高木 徹 氏

○講義「生涯学習におけるオンライン学習の魅力〜ICTの活用で広がるつながりづくり〜」
関東学院大学 国際文化学部部長・教授 吉田 広毅 氏

○情報交換「ICTの活用について」
《研修アンケートより》
○事例発表「ICTを活用した社会教育事業について」
・オンライン講座では、「なんとか利用者さんとのつながりを作らなくては」とにかくやって



第1回講座において、事例発表「ICTを活用した事例発表」が実施されました。

「みよう」という気持ちが大きく、他の様子まで気がまわらなかつたので参考になった。「とにかくやってみよう」から、その目的や意義、影響などを考えるタイミングだと感じた。

○情報交換「ICTの活用について」
・みなさんがICTの活用をどのように考えているのか、直接聞くことができました。また、動画を作る際にプロに頼むのか、専用ソフトを買っているのかなど、技術面についても聞けて良かったです。

《第2回A》6月11日(金)

会場 大和市文化創造拠点シリウス
○参加体験型学習「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
県央教育事務所
社会教育主事兼指導主事 鈴木 智久 氏

中教育事務所
社会教育主事兼指導主事 榎田 和哉 氏

○事例発表「大和市生涯学習センター 複合文化施設の事業連携例を中心に」
大和市生涯学習センター副館長 中村 康恵 氏

○施設見学、情報交換
《研修アンケートより》
○参加体験型学習「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
・アイスブレイキングでは人権に配慮することに気づかされた。

○事例発表「大和市生涯学習センター 複合文化施設の事業連携例を中心に」
・複合施設ならではの良さや、やりがい、大変な点などがよく分かった。シリウスは大変素敵で施設だった。今の施設のよさを活かした取り組みをしていきたいという意欲がわいた。



第2回A情報交換：所属におけるお話を共有する機会を育む

(3)

《第2回B》6月25日(金)

会場 茅ヶ崎市立香川公民館

○参加体験型学習「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」
湘南三浦教育事務所
社会教育主事兼指導主事
品田 博行 氏

県西教育事務所
社会教育主事兼指導主事
樋口 憲一 氏

○事例発表「茅ヶ崎市の公民館事業について 香川公民館の取り組み」
茅ヶ崎市立香川公民館長
鈴木 朗 氏

○事例発表「平塚市立松原公民館の取り組み」
平塚市立松原公民館主事
大中 和彦 氏

○施設見学

《研修アンケートより》

○参加体験型学習「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」

・Zoom参加だったが、体を動かすアイスブレーキングはオンラインでも参加しやすく、通信の時間差があっても大きく影響しないのでやりやすいと思った。やり取りや交流には工夫が必要だが、楽しかった。

○事例発表「茅ヶ崎市の公民館事業について 香川公民館の取り組み」

・子ども向けの事業で、通年ものや、月1回のものがあるという

のが印象的だった。当館の子ども向け事業は夏休み期間に集中してしまい、その時限りで終わっていたので、普段から市民館・公民館に行ける環境があるというのには魅力的だと思った。

○事例発表「平塚市立松原公民館の取り組み」

・館内にとどまらず様々な所に出向いたり、屋外で体験活動したりと、地域資源を活用した取り組みの多さに感心した。七夕まつりの竹飾りコンクール参加も、地域の仲間との協力、交流を促し、作品を完成させる達成感や一体感を醸成するという点で素晴らしいと感じた。



第2回B 参加体験型学習「アイスブレーキングの様子です。右下のパソコンに向かう2人は、Zoom参加の方と行なっています。

《第3回》9月10日(金)

オンライン開催

○事例発表「平塚市立旭南公民館の取り組み」

平塚市立旭南公民館主事
山田 好徳 氏

○事例発表「厚木市立緑ヶ丘公民館の取り組み」
厚木市立緑ヶ丘公民館副主幹兼係長
武元 慎介 氏

○情報提供「神奈川県公民館連絡協議会について」
神奈川県公民館連絡協議会事務局
村上 英己 氏

○講義「全国の公民館の講座事例を学ぶ」
全国公民館連合会事務局次長
村上 英己 氏

《研修アンケートより》

○事例発表「平塚市立旭南公民館の取り組み」

・定番の事業を大切にしながら、新たな視点を忘れないように意識して新企画を立てているとおっしゃっていたのが印象的だった。見習いたいと思った。

○事例発表「厚木市立緑ヶ丘公民館の取り組み」

・高齢者が多いが若い世帯が増えているとのことで、中間層の世代が少ないのかと思ったが、3世代がテーマの事業も考えているとのこと、企画は大変そうだが、いろいろとやれることもありそうで楽しそうだなと感じた。

○講義「全国の公民館の講座事例を学ぶ」

・地域によってできることに違い

があることに気が付いた。それぞれの講座を参考に、自分たちの館で何ができるのか、また良いところを取り入れることはできるのか考えようと思う。

《第4回》10月12日(火)

オンライン開催

○スライド視聴「災害に備える」
県総合防災センター防災企画課長
寺西 年巳 氏

○人権教育講話「アサーティブなコミュニケーションを学ぶ」
相手の思いを感じながら自分の思いを伝えよう」
NPO法人アサーティブジャパン認定講師 渡辺 由美 氏

○情報交換

《研修アンケートより》

○人権教育講話「アサーティブなコミュニケーションを学ぶ」
相手の思いを感じながら自分の思いを伝えよう」

・「相手の事を考えて」と常に意識しているつもりだったが、ご講義いただき、今まで漠然としていたものが、具体化され、考え方の基本や、伝え方などを理解することができた。

○情報交換

・休館状況など、各館によって大きく異なるが、どの施設もオンライン等を活用しながら活動されており、大変参考になった。
(県公連経営・研修部会)

令和3年度 館長・公民館運営審議会委員等研修会

「新しい時代に求められる公民館像とは？」

「公民館をネットワークの基点とした新しい

「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の展開」

令和3年度館長・公民館運営審議会委員等研修会を、11月5日（金）、寒川町民センターで開催しました。

前半では、これからの公民館事業を推進する上で欠かすことのできない「ESD」について、国内での先行事例や平塚市の取組事例を交えながらの講演が行われました。

後半では、地域に根ざす公民館が、災害時に緊急避難所となったり、近隣住民の方が避難してきたりすることもあることから、様々な立場の人を尊重した対応をする際の基本知識を学ぶための人権講話が行われました。

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、YouTubeによる動画視聴と会場との併用開催となり、2つの講話動画の再生回数は令和4年1月末日時点で379回、会場での参加者は22名でした。

【講演】

「ESDで公民館事業を

バージョンアップ

「平塚市の取組事例から」

東海大学スチューデント

アチーブメントセンター

池谷 美衣子 氏

2002年に国連会議で日本が「ESD」(持続可能な開発のための教育)を提案してから20年が経過しているが、「ESD」の認知度は低い状況である。

国内の先行事例としては、2014年に開催された「ESDに関するユネスコ会議」にて、岡山県岡山市や福岡県大牟田市が取組発表を行った。

特に、岡山市は実践をまとめた実践集「れんめんめん」を発表し、公民館活動の参加者自身が、社会の課題と身近な暮らしとを結び付け、それを解決するためにできることを考え、実際に行動し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目指した取り組み力を入れていくそうである。

また、現在の公民館の共通課題として、事業のマンネリ化やただ楽しいだけの「学び」につながらない事業を「社会教育」と混同し、実施していることが挙げられる。

このような状況を打開するための方法の一つが、公民館事業を企画・実施していく中で、「ESD」

を意識することである。しかしながら、単独の公民館で実施するには、強力なリーダーシップがないと難しい現状もあり、ハードルが高いと思われるため、より取り組みやすくなるヒントとして、実際に平塚市で行った際の事例を交えてお話いただいた。

☆池谷先生の社会教育愛に溢れる熱いご講演は、今後の公民館事業を実践する上で、大変参考になる内容でした。



池谷先生による講演の様子

【人権講話】

「災害発生時の人権と

公民館の役割」

特定非営利活動法人 神奈川ボランティアネットワーク

塩沢 祥子 氏

災害は、地震・火災・津波・洪

水・土砂災害等があるが、一つだけでなく同時に起こることもある。そのため、どの災害でも共通するリスク要因を念頭に置き、自分の暮らす地域には、どの災害が起きやすいのかを想定し、平時から室内の安全対策・食料等の備蓄・避難経路の確認をするなど備えることが重要となってくる。首都圏は人口が多いので、特に、備蓄については、最低1週間支援がなくても賄える備えが必要である。

災害時の避難生活については、避難形態別に避難の内容が異なることや、災害そのもので亡くなる直接死だけでなく、避難所などにおける生活の肉体的・精神的疲労等が起因による関連死が多い。

また、災害後の避難所生活の役割分担を、力仕事と支援物資担当は男性、炊き出しと家族の世話は女性など、性別により決定すると、関わっていない性別側の視点が反映されないことがあるので、改善要望や問題点が出にくいといった課題があるなど、資料を交えお話しいただいた。

☆避難所の環境整備がいかに重要であるかを改めて考えさせられました。また、避難所運営や復興に向けた協議の場に、女性の参画が少ない現状があるので、女性が参画する重要性について、学ばせていただきました。

(公民館経営・研修部会)

第63回神奈川県公民館大会

テーマ

「新しい時代の生涯学習社会の実現と公民館の役割」

多様な主体の協働・連携と学びと活動を通じたつながりづくりに向けて

◇日時

令和4年1月28日(金)

13時30分～16時

◇会場

川崎市中原市民館多目的ホール

人生100年時代、Society 5.0、新型コロナウイルス感染症への対応など社会が大きく変化する中、「新しい時代の生涯学習社会の実現と公民館の役割」を考えると、この趣旨のもと、第63回県公民館大会を開催しました。

Withコロナ時代に対応するため、オンラインをとおして各所とつなげ開催した本大会は、新しい学びのあり方について考える機会にもなりました。

◇大会式典・表彰式

県公連 夏井 美幸会長、川崎市教育委員会 小田嶋 満教育長による主催者あいさつの後、各種表彰を行い、来賓である川崎市中原区 永山 実幸区長、神奈川県教育委員会教育局 高梨 信行生涯学習部長から御祝辞をいただきました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰

【優良公民館表彰】

相模原市立青根公民館
相模原市立千木良公民館
平塚市立八幡公民館
寒川町南部公民館

【職員等功績表彰】

該当なし

【永年勤続表彰】

小島 光一郎(川崎市宮前市民館)
小宮 肇(同市教育文化会館)
坂元 澄香(相模原市立光が丘公民館)
青木 悦子(同市立津久井中央公民館)
鶴川 怜(同市立新磯公民館)
佐々木 瞭亘(同市立大野中公民館)
中澤 美奈子(同市立相模湖公民館)
山迫 卓(同市立小山公民館)
利根川 伸(藤沢市立長後公民館)
安孫子 慎司(同市立善行公民館)
荒柴 三映子(同市立鶴沼公民館)
清岡 香織(同市立六会公民館)
横田 淳一(同市立片瀬公民館)
佐竹 麻季(綾瀬市立中央公民館)
平原 菜穂子(同市立中央公民館)
岩元 真由美(同市立中央公民館)
小林 亜古(同市立中央公民館)
内田 憲治(天井町教育委員会生涯学習課)
一寸木 貞夫(前橋市生涯学習課)

◇事例発表

「今後の市民館・図書館のあり方について」

川崎市教育委員会生涯学習推進課 担当係長 関 裕史 氏
川崎市教育文化会館 川崎市長補佐 小林 義仁 氏
川崎市宮前市民館 担当係長 戒田洋一郎 氏

川崎市麻生市民館岡上分館 分館長 石川 岳司 氏
事例発表では、近隣中学校や地元商店街、図書館など、多様な主体と協働・連携した取組を御紹介いただきました。また、講座での学習をそこで終わらせずに今後につなげるため、地域課題を提示して次の行動につなげるよう促すなど、「人づくり」「地域づくり」のヒントもいただきました。



川崎市からの事例発表

◇講演

「新しい時代の生涯学習社会の実現と公民館の役割」

日本女子大学 教授 田中 雅文 氏

講演では、新しい時代の公民館の役割について示唆をいただきました。また、「住民の『ために』(for)だけでなく、住民と『ともに』(with)公民館活動を行ってほしい。住民と直接接して、住民と共に地域をよくすることを楽しんでほしい」というメッセージで、職員を含め、公民館活動に携

わる人々の背中を押していただきました。



田中雅文氏の講演

◇会旗引継ぎ

大会の最後には、川崎市教育委員会 小田嶋 満教育長から、県公連夏井会長へ、夏井会長から次期開催地である相模原市教育委員会 鈴木 英之教育長へ会旗が引き継がれました。
なお、第64回神奈川県公民館大会は、令和5年1月20日(金)に相模原市立グリーンホールにて開催します。



会旗引継ぎ

(県公連事務局)

文部科学省優良公民館表彰 被表彰館の紹介

平塚市立横内公民館

平塚市には、ほぼ小学校区に1館の割合で25の地区公民館があります。横内公民館は、平塚市北東部にある公民館で、昭和49年に開館。間もなく50周年を迎えます。横内連合自治会をはじめ地域団体の大半が横内公民館を拠点に活動し、公民館は地域団体の連絡窓口のような役目も果たし、地域と強く結びついています。

◆横内公民館の特色ある事業

平成22年に「横内ふるさとカルタ」、平成29年にオリジナルソング「YOKOUCHI」が完成しました。横内地区の史跡や伝承等を基にしたもので、横内子どもサポートネットワーク協議会を中心に、地域で作りました。横内公民館まつりをはじめ、地域の様々なイベントで披露し、今や世代を問わず大いに盛り上がります。

令和3年11月には、公民館と自治会、体育振興会を中心に、横内ふるさとカルタに関連した問題を解きながら横内地区を一周する市民体育レクリエーション横内地区大会「ウォークラリー」を開催し、地域のことを地域の人たちが改めて勉強する良い機会となりました。また、横内公民館は保育園、小学校、中学校にほぼ隣接していることから、子どもたちの居場所と



横内ふるさとカルタに関連した問題を解いて歩くウォークラリー

なるよう公民館運営に努めています。例えば和室に絨毯を敷いた上で、利用が無いときは子どもたち開放しているほか、談話スペースを什器の見直し等で広げました。さらに、児童書等の大幅な充実の結果、多いときには30人以上もの子どもたちが公民館に来館するようになっています。中には和室で寝転がってゲーム等、リラククスして使う様子が日々見られます。このほか、地域ボランティアによる小学生対象の放課後宿題教室が、毎週金曜日に横内公民館内で開催され、塾等の学習環境に恵まれない横内地区にとって貴重な場となっています。

これからも公民館と地域が丸となって横内地区を盛り上げていきたいと思えます。

(主事 廣永 倫明)

相模原市立上鶴間公民館

上鶴間公民館は昭和62年に開設され、今年で創立35周年を迎えます。

公民館は閑静な住宅街の中にあり、人々が語り合うコミュニティ作りの拠点として、さらには学習文化・スポーツの拠点として、多くの地域の方々に支えられ、親しまれながら充実・発展してまいりました。

◆かみつるまでてくてくマップ◆

公民館が所在する地域は自然が多く、旧石器時代から近世にわたる遺跡が発掘されるなど、古くからの歴史がある一方、新築のマンションや戸建て住宅が立ち並び、古いものと新しいものが同居しています。地域には、今なお多くの史跡が残っていますが、新しく移り住んだ方々のみならず、以前から住んでいる方々にも、史跡の存在はよく知られていないのが実情でした。

そこで、コロナ禍による強い閉塞感を余儀なくされた令和2年度に、住民が主役となって行われたのが、地域の史跡を住民自らが歩き、住み慣れた街のすばらしさを再認識できるようにするための案内役となるマップの作成です。

日頃から公民館事業に協力いただいている有志の方々により実行委員会が組織され、はじめに郷

土史研究家から地域の歴史や個々の史跡について基礎的な知識を学ぶ時間が設けられ、その後、作成するマップの名称や掲載する内容、対象年齢をぐっと下げ、小中学校でも授業でご利用いただけるよう史跡の説明を簡潔なものとし、ルビを振るなど基本的な事柄を決定しました。

委員一人ひとりが夏の暑い盛りに何回も現地を足運び、史跡や散策ルートを丹念に調査した成果をマップの内容に盛り込み、委員が描いた各史跡の水彩画やイラストを多用し親しみやすさを演出するなど、幾度も議論を重ね、「かみつるまでてくてくマップ」の完成に至りました。



来由の史跡をガイドから学びます

現在、委員の皆さんは、自ら文献の調査や専門家の話を聴くなど、新しい知識の習得に意欲的に取り組んでいます。そして、当館のみならず他館が企画する史跡巡りの散策やウォーキングなどにガイドとして参画いただき、とても好評をいただいております。

(館長代理 菊地原 貴史)

オンライン事業の充実に向けた オンライン会議システム「Zoom」研修会

講師 ITサポートスクールひまわり 主宰代表
有賀 康江 氏

令和3年8月31日(火)、今年度新たに企画した「オンライン事業の充実に向けたオンライン会議システム『Zoom』研修会」を開催しました。

令和2年1月末より新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、公民館においても従来の対面による講座・学級等の実施が困難になることがありました。そのような中、導入されつつあるのがオンライン会議システムですが、「使い方に不安が・・・」という声があることから、今年度、本研修会を開催しました。

研修会ではZoomに特化し、身に付けたいスキルに応じて、午前に初級クラス、午後には中級クラスを開催し、それぞれ65名、48名の参加がありました。

また、本研修会は自分でパソコンを操作することでスキルを学ぶことを目的としているため、各所からのZoom参加を基本としつつ、デジタル・デバイドに配慮し、Zoom配信の拠点である県立図書館で受講することも可能としました。

講師による

Zoomのポイント(抜粋)

◎主催者(ホスト)となる場合、インターネット回線を安定させるために有線を使用する。
◎バーチャル背景の設定やBGM、提示資料等で著作権に留意する。

◎一つの部屋の中で複数端末から参加すると起きやすいハウリングを防止するには、ミュート設定と併せてヘッドセットを使用する。

◎ブレイクアウトルーム(グループ)に分かれるときは「行ってらっしゃい」、戻ってきたときには「お帰りなさい」と声かけすることで、安心感が生まれ、場も和む。

◎集中し続けると疲れるため、休憩後などにみんなで軽くストレッチ体操をする。

◎印はすぐに真似できるワンポイントアドバイスです。
また、職場内でZoomを使ってみるなど、失敗を恐れず経験を積む中で慣れていくとよいと話されています。

「つながり」づくりに向けて

参加者からは、有賀先生のわかりやすい説明もあり、有益な研修会だったという感想を多くいただきました。

また、途中で行われた「ブレイクアウトセッション」(少人数に分かれての話し合い)で参加者同士が交流し、オンライン講座などについて情報交換できたことも喜ばれました。

対面の魅力は尽きないのですが、withコロナ時代にあつて地域住民の学びを止めず、人と人がつながり続けられるようにするために、「できるところ」からオンライン会議システムを活用してみたいかがでしょうか。



撮影・遠慮は先生にお願いしました。有賀先生は、中央が有賀先生、右側に撮影・遠慮は先生にお願いしました。撮影・遠慮は先生にお願いしました。撮影・遠慮は先生にお願いしました。

(県公連事務局)

第43回全国公民館研究集会 第61回関東甲信越静公民館 研究大会山梨大会

「公民館がつなげる地域の人・ものこと&MIRAI(しなやかな公民館活動をめざして)」をテーマに計画されていた山梨大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、基調講演と山梨県実践事例発表のオンデマンド配信と大会記録集の送付により実施されました。基調講演では、長野県立歴史館特別館長 笹本 正治 氏により「公民館で働いている人こそが、地域づくりの鍵であり、地域活性化の鍵である。みんなで地域を元気にするために公民館活動をより豊かなものにしていきたい」という力強いメッセージが発信されました。

また、県公連からは、綾瀬市立中央公民館 館長 高木 徹 氏に「地域住民や多様な主体との連携事例について」と題して、記録集に事例提供していただきました。平成28年度から毎年開催している、趣味や特技の披露や体験をとおりして地域の人が交流するイベント「だがしや楽校(がっこう)」などについてご紹介いただいています。次年度の本大会まで行われるオンデマンド配信とともに、綾瀬市立中央公民館等の事例もご覧ください。

(県公連事務局)

令和3年度からの新規事業 「動画配信用機材貸出事業」について

県公連の令和3年度年間活動テーマは、「新しい時代に求められる公民館像とは？」公民館をネットワークの基点とした、新しい「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の展開です。

テーマ設定の理由の一つが、令和2年9月の中央教育審議会生涯学習分科会において、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえてなされた議論の整理「多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育の命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ」です。

各公民館においても、地域住民の学びを止めないため、また、つながりづくりを進めるために様々な試みがなされており、その一つがICTの活用です。

そこで、県公連では、各市町公民館がwithコロナ時代に対応するための一助として、今年度より新たに動画配信用機材の貸出事業を開始しました。

【今年度の機材利用事例】

・ 予めビデオカメラとライトを利用して公民館利用団体の発表を撮影し、「公民館フェスティバル」会場で上映。

【右下の写真】

・ ライトとマイクロフォンを利用して、講座をZoom配信。
【左下の写真】
・ ビデオカメラを利用して、公民館まわりの様子をサテライト会場に生中継。

機材を利用された団体からは、いずれもご好評をいただきました。住民の方からの多様なニーズに応えるために、本事業をぜひご活用ください。

動画配信用機材の利用をご検討される場合は、予約状況などを含めて県公連事務局にご相談いただくとともに、県公連ホームページには貸出規程、利用申請書、利用報告書を掲載していますので御参照ください。

なお、県公連事務局（県生涯学習課）でもICTの活用を少しずつ進めています。その中で心がけていることは「前日までに実際に行ってみる事」です。そうすることで思わぬ課題に気づき、打開策を見出すことができます。このような事務局での経験をお伝えし、参考にしていただければと思いますので、ICTを活用する上でのご質問などあればご連絡ください。

【Zoomによる講座生配信】



(県公連事務局)

ライトで画面を明るく、マイクロフォンで音声を明確にすることができました。

【利用団体の撮影】



ライトに照らされ、演奏者のモチベーションもアップしました。

全公連表彰 被表彰者の紹介

令和3年度全国公民館連合会の各種表彰が決定し、県公連では次の方が受賞されました。

永年にわたり、公民館活動の振興と地域社会の発展に貢献してこられたことに深く敬意を表するとともに、心からお祝い申し上げます。

○永年勤続表彰

小林 義仁 氏

(川崎市教育文化会館)

徳永 玲子 氏

(相模原市立橋本公民館)

松田 好恵

(相模原市立上鶴間公民館)

佐野 淳子 氏

(相模原市立大沼公民館)

○功労者表彰

木下 敬之 氏

(神奈川県公民館連絡協議会前会長)

藤嶋 直司 氏

(神奈川県公民館連絡協議会前副会長)

中山 耕造 氏

(神奈川県公民館連絡協議会前監事)

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため表彰式は行われず、賞状と記念品を御所属をとおしてお渡ししました。

(県公連事務局)



中井町立井ノ口公民館

中井町立井ノ口公民館は、神奈川県南西部に位置する、中井町で唯一の公民館です。図書室や講堂、音楽室等を有し、昭和63年の開館以来、町民の身近な生涯学習や交流の場となっています。

図書室では、令和元年度より図書の電算化を行い、より効率よく資料検索や貸出・返却できるようになりました。また、例年1月4日から2週間に渡り、テーマごとに3冊の本が入った「本のかかし福袋」を実施し、普段選ぶことがない本との出会いを利用者にお楽しみいただいています。

わが館の講座・教室では、新型コロナウイルス感染症の影響から一部中止としたものもありましたが、地域企業の協力によるコーヒーの美味しい淹れ方を学ぶ「コーヒークラス」や季節・行事に合わせた「迎春の寄せ植えづくり教室」等を開催しました。また、夏休み期間に「バルーンアート教室」「親子お天気教室」等を開催し、小学生やその保護者といった若い世代の参加を得ることができました。例年2月に開催している「公民館まつり」では、利用登録団体が作



中井町立井ノ口公民館外観

品展示や講堂での芸能発表、茶道お点前等体験コーナーの設置を行い、日頃の生涯学習の成果を発表しています。また、利用登録団体会員の相互協力で運営することにより、会員間の交流が深まることにも、公民館活動を地域住民に広く知ってもらう機会にもなっています。今年度は、昨年度に引き続き、感染症拡大防止等の観点から中止となつてしまいましたが、来年度こそは開催できることを願っております。

コロナ禍が続く今だからこそ、公民館事業の精査・創意工夫により、町民が安心・安全に利用できる、生涯学習や地域活動の拠点として活気ある施設となるようこれからも尽力していきます。

(主事 敲森 浩一)

箱根町社会教育センター

箱根町は神奈川県南西部に位置し、芦ノ湖や美しい山並みや温泉など豊かな自然に恵まれ、江戸時代からは東海道の要衝として宿場町・温泉場として発展し、現在はリゾート地として国内外から多くの観光客が訪れています。

当町には4館の公民館があり、中央公民館であるわが館、箱根町社会教育センターは、昭和63年2月に住民がいつでも自由に利用できる施設として、町制30周年を記念して建設されました。『箱根を知り、箱根を語る人づくりと輪づくり』を目標に、生涯学習を推進する拠点施設として、公民館活動、図書館活動、視聴覚活動の3つを運営の中心にしています。

また、わが館の利用者が入浴できる源泉かけ流しの温泉があるのも特徴の1つになっています。

第60回箱根町民文化祭を開催

入館時の手指の消毒や検温の徹底、密が懸念される音楽のつどいやステージコーナーの中止など新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、令和3年11月5、6、7日の3日間、第60回箱根町民文化祭を開催しました。定期利用団体22団体の作品展示のほか、箱根町内の園児、小学生、中学生、福祉施設や個人で応募された方々

の作品多数を展示することができました。また、短歌や俳句、詩、エッセイなど文芸作品を収録した「文芸57号」を刊行し、三百部配布しました。

今年は、60回記念ということもあり、文化団体連絡協議会加盟の各団体から心のこもった素敵な記念品が配付され、来場した多くの方々に喜ばれました。



町制30周年を記念して開館された箱根町社会教育センター

果たすべき役割

少子高齢化や人口減少など課題が山積していますが、地域コミュニティを活性化するうえでも、公民館の役割はますます重要になります。小さな集いから徐々に交流の輪を広げ、多世代が集う地域コミュニティ活動の拠点施設にもなるように努めていきます。

(館長 田中 直子)



『すず虫愛好会』

藤沢市村岡公民館

「すず虫愛好会」は令和3年に創立50周年を迎えました。設立のきっかけとなったのは、当時まだ知られていない存在だった「村岡公民館」を何とか地元住民に知ってもらおうと、2代目館長の発案により、すず虫の無料配布を始めたことでした。こうした活動を50年にわたって続けてきました。毎年7月下旬、楽しみにしている市民に、すず虫愛好会の会員や市内の飼育協力者約40人が育てたおよそ1万匹のすず虫を市内7か所の市民センター・公民館で配布しています。

5月から10月の半年間という短い一生の中で、オスは「リーン、リーン」と精一杯鳴いて求愛し、メスが卵を産んで子孫を残します。こうして毎年繰り返されるこの行為に、飼育者は生命の神秘を感じ、飼育する喜びを味わい、その美しい鳴き声に癒され、魅せられています。さほど飼育に手間がかからないのも、50年続いている理由の一つでしょう。

市民配布の他にも、市内の保育



すず虫の配付の様子

園に約1か月間飼育箱を預かってもらい、すず虫の飼育や観察を通して、命の大切さやはかなさを子どもたちに学んでもらう活動も行っていきます。保育園を訪問すると、子どもたちは瞳を輝かせて、様々な質問を投げかけてきます。これに答えることも「すず虫愛好会」の大切な役割になっています。令和3年には、創立50周年を記念してすず虫を野に放ち、自然の中でその鳴き声を聞くためのプロジェクトをスタートさせました。虫の声を楽しむことは、いにしえより伝えられている日本古来の文化です。すず虫の野生本能を引き出し、自然の中で暮らしていきたいという、今後も続けていきたいと考えています。(会長 吉田 勉)

『カントリーダンス香川』
茅ヶ崎市立香川公民館

カントリーダンスの起源は、17世紀のイングリッシュで流行した民族舞踊で、名前の由来はカントリーハウスで踊られたことによるそうです。アメリカの国民音楽カントリーミュージックに合わせて踊るスタイルのほか、様々なジャンルの曲に合わせて、自由に楽しんで踊れることが最大の魅力です。

私たちのサークルは、市民が公民館に対し企画提案した「めざせ！健康長寿」の中で「カントリーダンスを踊ろう」に参加した方々からの「楽しいし健康にも良さそうなので、是非サークル化をして欲しい」との声がきっかけで作られました。

最初は、7、8人からのスタートでしたが、全員がお友達を誘ったり、また公民館まわりの舞台で発表を見た方々が「楽しそう、これなら出来そう、年齢も近そう」と集まってきました。お蔭様で6年が経ち、黒一点の男性と熟女23人の平均年齢70歳の仲間で、賑やかに和気あいあいと楽しんでいきます。皆さん気持ちも見え目も50歳台です。

活動は、先生のレッスンが月2回、レッスンの復習と運動不足解消も兼ねて自主練習を月2回行っ

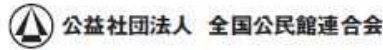


華麗(加齢?)な熟女とナイトもちよっと緊張

ています。会員の皆さん全員がカントリーダンス未経験者ですが、1曲を3回ぐらいで踊りこなせるようになりました。皆さんの努力もありですが、じっくり丁寧に分かりやすく指導してくださっている先生のお蔭です。踊る楽しさ、また仲間という楽しさを教えていただき感謝です。

1回1時間半のレッスンで7千歩ぐらい歩いているそうです。音楽が流れると自然と重たかった腰や足も動き出し、適度に汗をかき笑顔になりフレイル(加齢により体力、気力が減少すること)も吹き飛んでいきます。

サークルを通して仲間をつくり、公民館事業に参加することで地域社会の一員で有り続けたいと思います。(代表 佐藤節子)



公民館総合補償制度

この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポートします。

1. 行事傷害補償

全公連見舞金制度
+ 災害補償保険
(公民館災害補償特約、
熱中症危険補償特約)

2. 賠償責任補償

賠償責任保険
(施設所有管理者特約、
昇降機特約)

3. 職員災害補償

全公連見舞金制度
+ 普通傷害保険
(就業中のみ危険
補償特約)

補償範囲や対象者が広い制度です。

年1回の手続きで安心です。

掛金には割引制度もあります。

*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

TEL : 0120-636-717(通話料無料)

FAX : 0120-226-916(通話料無料)

(受付時間:9:15から17:00まで)

■引受保険会社

損害保険ジャパン株式会社

営業開発部第三課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

TEL 03-3349-3820

(受付時間:9:00から17:00まで)



(SJNK19-12506)2020年1月15日作成[2001K-例]

令和4年度総会(予定)

○日時

令和4年5月20日(金)

午後2時から

○会場

足柄上合同庁舎

開成町古田島2489-2

○電話

0465(83)5111

○交通

・小田急線新松田駅 または
JR御殿場線松田駅

徒歩約15分

・新松田駅より箱根登山バス
関本行き バス約5分

「合同庁舎」下車

※同日開催の「館長職員等研修会」はオンライン(Zoom)併用開催の予定です。

編集後記

令和3年度もコロナ禍の影響が続いた1年となりましたが、県公連は各部会とも精力的に活動し、公民館かながわは全12ページとなりました。オミクロン株が急拡大し、各種制限を実施している市町もある状況ですが、公民館活動が従来のように出来る日を待つばかりです。

表紙

「平塚市立吉沢(きさわ)公民館」

平塚市の西部、自然豊かな地の一角に建つ公民館です。令和3年6月に新しくなり、多様な活動が繰り広げられています。これまでの公民館は、かつての小学校の校舎の一部を利用したもので、小学校が移転したのち、平成4年から約30年使用してきました。長い月日が経ち、老朽化が著しいことから、この度、同じ敷地内に新しい建物を整備いたしました。新しい建物は、平塚市内の公民館では唯一の平屋建てで、館内を移動しやすいのが特徴です。また、外観は自然豊かな地に馴染むよう、木目調になっています。玄関を入るとすぐに地域の交流の場となるよう、図書・談話コーナーが設けられています。そのほか100人収容のホール、会議室(2部屋)、和室、調理室、授乳室等があります。かつて、小学校があった時代の賑わいを継承し、地域のみなさんの躍動感あふれる活動が繰り広げられていきますよう、期待がもたれています。

- ・所在地 平塚市上吉沢 395
- ・開館時間 午前9時〜午後10時
(年末年始休館日あり)
- ・併設 市民窓口センター
- ・電話 0463(58)0880
- ・駐車場 29台
- ・交通 平塚駅北口から神奈川大学行バス「神戸」下車徒歩2分